

令和4年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	道の駅くしま	
所在地	串間市大字西方5503番地1	
指定管理者	名称	株式会社海山中
	代表者	代表取締役社長 堀口 一樹
	住所	宮崎県串間市大字南方2588番地1
モニタリングの実施方針・方法等	業務報告書の提出を受け、モニタリングを行った。 また、サービスの質については、運営評価モニター会議にて、適正なサービス提供が行われているかを確認した。	
担当課 (問い合わせ先)	串間市役所 商工観光スポーツランド推進課 観光スポーツランド推進係 (TEL0987-55-1126 内線268)	

<p>■モニタリングの総合コメント</p> <p>道の駅くしまは、施設の設置目的である市民及び道路利用者に対する良好な休憩場所と地域情報の提供をはじめ、地元産品の販売・PRなど積極的に事業展開しつつ、地域活性化を図りながら、施設の適正な管理が行われている。</p> <p>また、指定管理者と市における連絡調整会議により意思の疎通・連携が図れており、また休憩施設設置者である国土交通省との連絡・調整等も適宜行われている。</p> <p>令和3年4月24日のオープン以降、想定を上回る来場者に利用いただいているが、本市のさらなる魅力発信と収益につながる取り組みとして、地元農林水産物の通年取り扱い・品揃えが図れるよう、出荷者協議会等関係団体と連携した取り組みを継続して行っていただきたい。</p>
--

<p>■今後の業務改善に向けた考え方</p> <p>道の駅くしまは、令和4年4月のフルオープン以降、利用客の増加が図られている。</p> <p>この機を逃さず、中心市街地の集客拠点としての安定運営が図られるよう、利用者ニーズに即した柔軟性の高い事業展開を積極的に行っていただきたい。</p> <p>また、地元農林水産物の安定した品揃えが図れるよう、出荷者協議会をはじめ関係機関・関係者との連携を密にした取り組みを鋭意展開していただきたい。</p> <p>コロナ禍後におけるまちなかの賑わいづくりの起点となれるよう、屋根付きイベント広場等を活用した積極的なイベントを実施するとともに、都井岬・串間温泉いこいの里・高松キャンプ公園等、市内の各観光施設との回遊性を高めるための施設間連携の強化に努めていただきたい。</p>
--

■ 基本的な考え方(施設の性格・目的との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性
施設の設定目的を理解し、その目的に沿った施設運営が行われている。また、自主事業(飲食物販施設営業)においても、地域振興施設としての役割と責務を理解し、適宜商品の見せ方をを変化させるなど串間の魅力を十分に市外へ発信する取り組みを行っている。

■ 業務内容

・機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)
道の駅くしまのオリジナルブランドの商品開発(「塩バターポテト」「芋かりんとう」「金柑かりんとう」)を行っている。また、新型コロナウイルスが収束に向かう中、グランドオープンイベント、マルシェ開催、スーパーカー展示イベント等を実施している。 地域貢献事業として、串間市内の小・中学校に対する学習の場の提供(味覚の授業)や地元生産者を中心に構成された「道の駅くしま出荷者協議会」が道の駅に地場産品を出品している。
・責任性・実効性(施設の運営体制や組織)
「道の駅くしま組織表」が定められており、協定書に基づく管理運営がなされている。
・明瞭性・規律性(適正な事務や経理)
毎月の来場者や売り上げなど、月例報告書により報告されている。また、公益施設の管理(指定管理料により管理運営)と収益施設の営業管理(テナント料や自主事業の収益より運営)を別に経理の管理を行っており、適正に処理されている。
・安全性(安全管理、緊急時等の対応)
「防犯マニュアル」や「緊急連絡網」を作成しており、緊急時に迅速かつ適切な対応を行えるよう安全対策を講じている。
・社会性(環境等への配慮)
市民や道路利用者に対し、快適な休憩サービスを提供しつつ、消灯・冷暖房機器の使用頻度の調整などによる電気使用料の削減、使用料経費の削減に努めている。

■ 事業収支

経済性
公益事業については、仕様書に定める要件を満たし、適正に運営されている。 収益事業については、集客力を高めるため、リニューアルや広告などの販売促進費等の投資が必要になっている。今後の収益増に向け、さらなるサービス向上策の実施や魅力の磨き上げに努めていただきたい。

■ 団体の経営状態

経営の健全性
道の駅くしまは、市内外から多数の来訪者が見込まれる施設である。集客を図るためにも各種イベントを実施するとともに、経営改善のため、各データを分析し、効果的かつ効率的な施設運営に努めていただきたい。